

られていまして、輸送船が潜水艦の攻撃でやられて、積み荷の高梁や豆もろこしの唐米袋が潮流にのって、約1週間で流れつきますが、死かばねとは1間もはなれていないところにある唐米袋の方を引き上げました。そして、その高梁や豆もろこしを鍛造場のシャベルの上で焙って食べると言う事を平気で経験しておりました。男は20歳までに死ぬと言う覚悟はあっても、生きる意欲が勝っていたと言うべきでしょうか？ その頃は毎日毎日自分をみつめ、死と向き合って生きていた少年時代で、今考えると薄情と言うか、残酷とも言うでしょうが、残念ですがさもしい時代を生きて参りました。その頃、国の死と言うものは、軍人勅諭にもありますが、世々天皇が統率しているもので、それが2千5百有余年と言う歴史をもつと言われていた時代、私は多感な少年期を殺伐とした時代、1人耐えて生きて参りました。

そして其の日も空襲がありまして、パラシュートを付けた磁器機雷が、港に沢山投下されている中、修理をした船が海を掃海しない中に出て行きました。暫くして大きな音がしたのでとび出してみると、大きな水柱が上っていました。暫く海の水が吸いよせられて東郷元師艦橋の画にもある様に、その水柱は下へは降りて来ません。そしてその船はへさきの部分を上に向けたまま間もなく水柱と共に海の藻屑と消えて仕舞いました。私達にパンを呉れた人達も一緒に……。何とも悲しい事でありました。

ところが当時はさもしいもので早速伝馬船が出て行きます。何をするかと言うと人命救助より、浮いた魚を捕りに出て行くんです。私は少年時代にその様な光景をハッキリと見ておりますし、私自身毎日、死と対決をしておりました。そして自分自身の心の中を毎日のぞき乍ら生きて参りました。そして終戦後私は3日2晩かけて帰って来ましたが、戦地から帰還する兵隊さんは、列車が止まる度に飯合炊さんをして食事をしておりましたが、小さな私に誰1人として食事を与えて呉れる人は居ませんでした。3日2晩飲まず食わずで、腹には刃渡り28cmのドスをぶち込んで帰って参りました。

兎に角、男は国の為、人の為に20歳までに必ず死ぬと言う覚悟をしておりましたが、帰って来たらお袋が私の月謝や寄宿費を出す為に、大変苦勞していたことを知って、申し訳ないと思い真面目になったと言うのが実情です。

子供の為には、矢張り愛情が欠如してはいけないと言うことで、子供は愛情のある環境の中で育て欲しいと願っています。ただ、きびしさがないといけなきので、私は今、(少年期に経験したことで)何の不平も不満ありません。ただ人様の仕事をお受けする中で、私の人生観で相談事や悩みを解決する様に心懸けています。今は法律で解決することが、実体に合わないこともあります。相談問題などもそうですが、法だけでは納得されない部分もあります。私はそう言う意味で少年期から沢山の勉強をさせて戴きました。

50にして天命を知る、60にして耳順(耳したがう)と言う孔子さんの様には参りません。まだまだ30年位は頑張りますのでよろしくお願い致します。今日はつまらない卓話をしてしまいました。どうも有難うございました。

8月5日例会： 豊島分区代理を迎えて

8月12日例会： 会員増強月間



三條北ロータリークラブ週報

ロータリーの心を

あなたの住むところ

私たちの世界

そこに住むすべての人々に

例 会 日

1997. 7 . 29

累 計 No 522

当 年 No 5

国際ロータリー会長 グレン W. キンロス 第2560地区ガバナー 久保田昭治

会 長／米 山 忠 俊

幹 事／吉 川 吉 彦

SAA／長谷川博一

例会日／火曜日 12:30～13:30

例会場／三條ロイヤルホテル ☎34-8111 FAX34-8114

事務局／三條市西四日町3-15-34

ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160 FAX33-8972

行 事： 卓話「？」山上茂夫会員

出 席： 本日の出席 53名中 38名

先々週の出席率 54名中 48名 90.57% (前年同期91.07%)

先週のメークアップ： 7月16日 パサイRCへ(フィリピン)中條耕二さん

23日 三條RCへ 山上茂夫さん

24日 燕RCへ 芦田義重さん、中條耕二さん、小林 満さん

山口龍二さん

ビ ジ タ ー： 三條RCより 渡辺宏策さん

三條南RCより 田中康雄さん、鈴木紈彦さん、横山準司さん、永桶栄資さん

会 長 挨 拶： 米山忠俊

夏の風物詩の夏祭り、花火大会が盛んにあちこちの町で行われ賑いを見せております。本当にビールと枝豆のうまい季節となりました。又、あまり歓迎しない台風9号が上陸し四国、西日本地区に被害をあたえており心配です。今年は台風が当り年にならなければよいのですが。

本日の例会に三條南ロータリークラブの国際奉仕委員長さんの田中康雄さんが夏期交換学生の当クラブの協力に、お礼を申し上げたいと見えておられます。田中さん御苦勞様です。あとで御挨拶をお願い致します。

本日の行事は会員卓話山上さんをお願いしております。経験豊富でベテランの山上さんのお話し勉強させて頂きます。山上さん宜しく願い致します。又、先週の会員卓話頂きました西山さんお話し大変参考になりました。私もさっそく当社の朝礼で貴社の社員教育のようすを話しましたところ、当社の社員を貴社の社員のマナー、サービスの良い事を知っており、伸びる会社はちがうなあと。さすがでございます。貴社の増々の御発展をお祈り申し上げます。

それから先日7月25日(金)に大委員長会議を持たせて頂きました。大委員長さん出席ありがとうございました。

議題は

1. 9月7日のIMについて
2. 9月16日のガバナー公式訪問について
3. 今年度各委員会の事業計画について
4. 今年度社会奉仕事業について

以上の件について具体的検討と内容のチェックをし、協議致しました。今後各事業をまとめ進めて頂くようお願い致しましたので、各大委員長さんより各委員会の皆さんにいろいろお願いがあると思いますので皆さん協力の程お願い致します。長時間会議が続き、夕食をはさんでいろいろ話がありましたが、お酒がちょっと入り色気のある話しが始まりました。楽しいですね。落語の春風亭小朝、通称「横町の若さま」が落語家の先ばいの長老、名人の方々は若さの秘訣は「いつまでも色気のある人間」で居続けると言う事で、セックスが減退したらその時から芸が落ちて行くといわれているといい、下半身に水を掛け、湯を掛け、鍛えて努力している事を先日の日曜日のテレビ「波乱万丈」で公言していました。人間、人生に色気、艶が無くなれば人が、世間が皆んなが相手にしてくれない。そんな自分になるとほんとうに老けるかもしれないですね。

先日の大委員長の皆さんは大変色気とつやがあり、又、それぞれの個性とあふれる魅力を持ち、人を引きつける存在価値が充分あり、楽しい夕食のひとつでロータリークラブの良いところを新ためて認識をして感謝を致しました。

大委員長さんありがとうございました。又、楽しい話を聞かせてください。

幹事報告： 吉川幹事

- ・三条クリーン協議会より ゴミの持ち帰り運動の実施にかかるご協力をお願い
日 時 平成9年8月6日（水）P.M 6:00～8:00
- ・1996～97年度米山記念奨学委員会より 吉田年度に対する支援の御礼
- ・桐生赤城RCより 発会のご挨拶

委員会報告：

な し

夏期交換学生受入れ協力に対するお礼のあいさつ：

三条南クラブ 国際奉仕委員長 田中康雄さん

ポールハリスフェロー表彰：

山 本 充さん
長谷川恵慈さん
馬場直次郎さん
山 中 正さん

して私を寄宿舍に入れたんだと思っています。

私の母はこちらの生まれですが、東京へ行って聖ルカ国際病院で、小児科の婦長をやっておりまして、親父と結婚したのち勤務先である下関へ行って生活したのが実態です。

母は大変ハイカラでして、大正時代に大きな帽子を被ってマキシと言うか、ロングと言うか、長いスカートをはいて、テニスコートでテニスを楽しんでいる写真があります。親父の方は埼玉の春日部で、落ちぶれて東京へ出て来たのがルーツであります。

親父の方は仏教で、お袋の方は戦時下でもクリスチャンで、私も小学校の時は毎日曜教会に行き礼拝と讃美歌を唄う生活をしておりました。外国人ともその頃よく接触し留学生やら牧師さんなどの中で育ったものですから、特に低抗なく今も外国人アレルギーはありません。小さい時はみんなと同じ様な格好がしたいと言うのが、子供の気持ですが、親が差別をしたんですネ…。小さい時は私達は、お小遣いを持って買い物をする、お菓子を買って来るなど一切させなかったんですネ…。不衛生だと言うことで…。そして10時になると、ビスケットと紅茶、3時もそうです。ビスケット2枚と紅茶。外では一切冷たいものを飲ませて呉れませんでした。そんな環境で育ったものですから、1人になったら反動でお金を使うのが面白かったんでしょうね。結局帰って来てお袋が余り苦勞をしているのをみて、悪かったなぁと反省して、漸く真面目になった訳です。

下関は源平合戦で平家物語にもある様に、壇の浦と言うところが、平家終焉の地であります。

壇の浦と言うところは、当時火力発電所のあったところで、塩の満ち干が約6mもあります。干潮になりますとかなり沖まで干潟になっていまして、関門海峡の間は汐のあるときでも北九州とは800m位しかない、大声出せば届く様な気がする程です。そして瀬戸内海と日本海の潮流は1日2回交互に逆流して、潮の流れも非常に早いところです。

ここで水軍である平家が有利な筈なのですが、村上水軍を味方に付けた義経の智力と戦略が、平家を亡ぼした訳です。これはまた後日と言う事でこの位にしますが、私はこんな山口県下関市で過して参りました。

私の少年時代は、軍国主義のメッカである山口県でしたから、中学1年の終りから学徒動員されまして、九州と下関の間にある厳流島で人間魚雷を作っておりました。宮本武蔵と佐々木巖流が戦った島です。港は三菱造船の彦島工場にドックがありまして、艦船の修理をしておりました。ドックに船を入れて水を抜いて行きますと、船は修理をする船台におさまります。水が少なくなって膝くらいになりますと、いろんな魚が入っているので、それを追い廻して捕えると言う無邪気なひとときもありました。私が一番ショックだったことは、戦勝国だと思っていた私達に、中国の漁船がだ捕されて来たとき、厨房をみていましたら、小麦粉にタッブリとハチ蜜を入れてパンを焼いて食べているんです。お腹が空いて空いてたまりませんので、船の丸窓から中をのぞいていましたら、人種をこえて敵国の人がそのパンを分けて呉れるんです。そんなひもじい思いをしたり、また温い人柄を感じた事を憶えています。

その頃は空襲は豊後水道に航空母艦が入って来て、1日4回の空襲が毎日ありました。兎に角、頭の上で特攻機がボーイングに体当たりをするのも目撃していますし、特攻隊が腕に日の丸をつけた飛行服を着たまま、土左エ門になって岸壁に流れついて来る。また朝鮮海峡は完全に制海権をも握